

(資料4-2②)_北海道の主要樹種林分収穫表

北海道の主要樹種林分収穫表

昭和 35 年 4 月

森林計画研究会北海道林務部支部

序

森林経営において収穫表の果たす役割は極めて大きい。そして業務上これをいかに活用するかによつて、林業技術者の価値を決定づける。これまで北海道の主要樹種に関する収穫表は数多く発表されていたにもかかわらず、現場の技術者は文献の索引などが煩わしくて、充分これを活用していなかつたといえる。ついでには今回森林計画研究会がこれらを一冊に集めて使用に便ならしめたことは、まことに時宜を得た試みと考へる。国および道有林の林力増強計画がようやく軌道にのり、民有林においても経済性の追求のやまましいとき、関係各位の業務運営上ひ益するところ大きなものがある。願わくばその活用において、よく忖度して誤りなきを期せられたい。

昭和 35 年 4 月

北海道林務部長

沢 田 成 爾

発刊によせて

本書は現在までに発表された北海道関係の林分収穫表を網羅しており、林務関係の職員が諸種の計画実行にあたり便の多いことは論をまたない。

収録された収穫表は、針葉樹37種、広葉樹27種、計64種であるが、業務上必ずしも満足できる種類ではなく、さらに今後の研究に期待するところ大である。また使用にあつては充分各収穫表の特性を知悉することにつとめ、いたずらに安易な適用を行つて過誤をおかすことはいましめねばならない。

なお、本書のとりまとめにあつていろいろの御指導と監修の労をとられた林試北海道支場松井善喜経営部長に深い敬意を表するとともに、業務の余暇に編輯をすすめた若林二郎(前)森林計画班長、大野喜久夫森林計画班長、梅田善則、石坂封、山崎圭三各技師の労を多とするものである。

昭和 35 年 4 月

林務部森林企画課長

坂 井 好 比 古

は し が き

本書は、森林計画関係者の便に供するため、業務参考資料としてとりまとめたものである。北海道の在来樹種あるいは外来樹種の人工植栽が益々盛んになるにつれて、その収穫予想への関心は極めて旺盛なものがある。従来からこのことについての研究報告は少くないが、現地で経営または行政指導にあたる技術者がこれらを座右にすることは簡単とはいい難かつた。今回これら貴重な資料を十分に活用いたすべく、各著者に御寛恕を願つて一冊に蒐めさせていたゞいた。

何分にも本務のかたわらとりまとめたもので、内容においても不備な点が多いと思うが、諸賢の叱正をいたゞき編輯に補正を加えて行きたい。

記

1. 出来るだけ研究発表時の体裁をくずさないように努めたので各表により様式が区々である。
2. 使用に便なように編輯者の責任において各表毎に註釈を付したが詳しくは目次に文献をしめした。
3. 原表が尺貫法によるものは編輯の際メートル法に換算させていたゞいた。
4. 副林木累計などを削除した表もある。

昭和 35 年 4 月

森林計画研究会北海道林務部支部

大 野 喜 久 夫

解 説

・ 収穫表の用途 ・

収穫表はつぎのような用途がある。

- 1) 収穫表から蓄積や成長量が査定でき、将来の収穫量を予想できる。
- 2) 森林の経営計画や経営経済の計算の資料になる。
- 3) 経営技術ならびに育林保育の指針がたてられる。
- 4) 収穫表と比較して、地位が判定され、経営成果を検討することができる。

・ 収穫表の説明 ・

北海道の人工林はカラマツを除けば伐期に達した古い林分が少ないので、本書に載せたものも地方的に僅かな資料から予想したものが多く、厳密な意味の、現実林の統計的収穫表とならないものもある。また法正林分にたいする基準収穫表としてみるには、これを作る資料がよく検討されていない憾みがある。しかし他方広大な新植地が毎年増加しつつあり、広い二次林は旺盛に成長しつつあるので、拙速的なものでも、一応収穫を予想し、経営の指針を見出す必要に迫られている。かかる点から一斉林型の天然林から収穫予想表を作り、人工林の今後の収穫量を推定することは余儀ないことと思われる。

北海道といつても面積広汎で、緯度、海拔高、地形によつて気候が著しく異なり、土壌的にも火山灰地、重粘土地、漂白土地帯などの介在もあつて、立地条件が一樣でない。したがつて従来発表された地方的収穫予想表を抄録して、比較検討すれば、ある程度の収穫の目途がたてられよう。今後幼令造林地の成育にしたがい、多数の調査資料からこの予想表が確められ、ないし補正されることであろうが、とりあえず、現段階においての収穫表を編輯し、読者の利用に便ずるため簡単な解説を附記した。

1) 地位の査定：地方的収穫表は地位の総合判定がつけ難いので、地位の代りに平均高を用いると便である。15年生のカラマツ林の平均高は13m～7m階に亘るので、15年生の平均高によつて具体的に地位を示すことができるのである。またトドマツ林では幼青年期の樹高成長が遅いので、40年生の林分の樹高を用いる必要がある。すなわち40年生の平均高は20～11m階に亘るので、40年生の平均高から数量的に地位級が表示されるのである。

2) 主林木、副林木：中庸度間伐(B度)のさいの間伐される木が副林木で、残る木が主林木である。戦前の収穫表は弱度間伐を対象とし、劣劣木のみが選木されるので、間伐木の単材積は主林木のそれの0.3～0.5の範囲のものが多かつたが、中庸度間伐では0.4～0.7の値となる。しかし副収穫は不便な奥地では間伐木の集約な利用が困難なので、林地に枯損となつて捨てられるものも見込まなければならぬ。

3) 平均径は断面積の平均から換算した値と胸高直径を算術平均した値とがある。前者は中央木の

平均径と記しており、後者は林野庁の新調製要綱によるものである。

平均高は胸高断面積に比例せしめた中央高と単なる算術平均値の場合とがある。平均径に準じた使い方である。

4) 林令は植栽後の年次、年令は苗令を含めた年令で、林野庁の要綱は前者による。

5) 主林木本数：間伐直後に立っている主林木の本数とうつ閉した法正立木度の本数とがある。

前者は林野庁の調製要綱によるもので、戦前の収穫表は後者によるものが多い。

.. 収穫表の使い方 ..

収穫表によつて地位を判定し、今後の収穫を推定する場合、現実林は必ずしも正常の構造をしていないので、つぎの方法で、収穫表から換算する。

1) 主林木の高さを測つて、平均高をもとめ、林令対平均高と収穫表の樹高成長とを比較して地位を判定する。

2) 現実林が当初霜害やアブラ虫の被害を受け、成長の停滞していた時期があるときは順調に育成している最近10か年間の樹高連年成長で同じ高さ階について比較する。

3) 主林木の平均径対立木本数と収穫表の本数との比によつて立木度 x をもとめる。

立木度 x の林分の収穫量はつぎのように推定する。立木の配置が均斉で伐期の本数が現本数より少ないときは、伐期の主林木の収穫量は表の値を用いる。立木の配置が不均斉なとき、または伐期の本数よりも現本数が少ないときは、孔状部の面積に応じ主伐収穫の減量を見込むか、または主伐収穫量 M に $\frac{xN_1}{N_2}$ を乗ずる。副林木収穫は立木度によつて著しく増減あるもので、副林木収穫累計にたいし $\frac{xN_1-N_2}{N_1-N_2}$ を乗じてもとめる。但し N_1 は収穫表の現林令の立木本数、 xN_1 は現林分の立木本数、 N_2 は主伐期の立木本数。簡単に概算する場合には副林木収穫累計に x を乗じて求めてもよい。

4) 蟲菌風雨害や風雪害の予想される場合にはさらに1割内外の安全率を見込んで計画する。

5) 収穫表を現林分の施業経営の検討に用いる場合には、平均高、立木度の比較の他、樹幹解析により成長経過をもとめ、指林木法で修正した成長と収穫表の成長とを比較する。樹幹解析木は現在は平均値でも過去の成長は優勢木として育成してきているので、優占木と平均木との樹高や胸高直径の差を指林木法により見込まなければならぬが、収穫予想表の場合にはかかる修正を行わないで簡易に傾向を比較してみる程度にする。

.. 天然林の地位の判定法 ..

1) 天然林の地位は判定しにくいので、樹幹解析木の順調に育成している期間の樹高の連年成長と収穫表とを比較して判定する。

2) 胸高直径52cmのトドマツ、エゾマツの単木材積は、平均樹高に0.1を乗じた値 $0.1H$ m^3 の値に等しい。また50~58cmの平均単材積は $(0.1H+0.2)$ m^3 と考えることができる。したがつてこの直径階の平均高27.26m階の単材積は2.9、2.8 m^3 で地位が上、25.24m階は中、23.22m階は下、21.20mは最下位の地位とみなしてよいであろう。

3) 土地的因子によつて地位を数的に決める方法も行われているが、地位指数としてはA層の厚さ (x) B層の現地含水率 $(y\%)$ を用い、地位指数は $SI = a - b \frac{100}{x} \pm cy$ で示され、SIはある令階の樹高 m である。すなわち土壌からみた地位についてはA層の厚さは現地で土壌断面から簡単に測定できるが、B層の水分は土壌の通気、通水性や堅軟度、根の深さなどから間接的に推定できる。

例えば40年生のトドマツ林の平均高はつぎの式から求められる。この数字は仮定的なもので、今後土壌学的に解明されなければならない。 $Hm = 20.0 - 0.5 \times \left(\frac{100}{x} \right) - 0.3y$ (y は土壌の結合度、深度のよい順に1. 3. 5の値とする。)

.. 植生による地位の分け方 ..

植生の育成状態によつて判別する。

同じ種のササについては稈が高く、太く、育成のよい場合には地位が上で、稈低く、細く、育成の不良の場合は地位下である。

地位上のササ地の随伴植物はジウモンジシダ、オンシダ、ムカゴイラクサ、ウマノミツバ、オマイズルソウ、クルマバソウ、フツキソウなどの混生が多い、地位下の林床植物型はオーバズノキ、ハナヒリノキ、ツルツゲなど乾性灌木型、エゾシヤクナゲなどの寒冷灌木型、藨類、ゴゼンタチバナ、カタバミなどの寒冷草本型、酸性湿原のヤマドリゼンマイ型、イソツツヂ型などである。また天然更新のよいイチャクソウ型、ツルミキミ型などは地位の面からは上の方に属しない。

天然林の地位査定については樹高を5、土壌を3、植生を2として、総合的に地位を判別し、該当地位の収穫表から収穫を推定するのも一方法であろう。

.. 裸地の地位判定 ..

裸地は地形(海拔高、傾斜、方位)気候(成長期の気温と平均温)土壌性から採点法で地位が判断されるが、つぎの植生法による採点も加味した方がよい。

地位上 草丈高く、太い。クマイザサまたはチシマザサにヨモギ、ヒヨドリバナ、ナナツバ、イラクサ、ヨブスマソウ、アザミなどの混ざる場合

地位下 草丈低く、細い。ハギ、カヤ、ススキ、ワラビなどの生ずる乾燥型植生とアヤメ、カンゾウ、オミナヘシ、サワギキョウなどの生ずる湿生型植生

地位中 草丈、太さ中庸で、広く各種の草本を含む。

.. 気候による地位の判定 ..

樹種によつて最適の気温、雨量、日光量が異なるので、気候と収穫との関係は簡単ではない。本州中部を郷土とするカラマツは次表の成長期間の温度がたかいほど、また北向傾斜地よりも南向斜面の方が育成のよいことが推察できる。しかし農作物のように開花や穀菽の成熟に高い温度を要するものと異なつて、トドマツのように高温時の直射光線下ではかえつて同化作用の減退するものもあつて、気温の高いことが必ずしも地位判定の基準とならない。気温は一般に海拔高100mにつき $0.56^{\circ}C$ 低下するので、表の地域の平均気温は海拔高による気温の漸減をみこまなければならない。

林木の成長期の気候表

区 分	年平均 気温 (°C)	5-9月の 平均気温 (°C)	7-8月の 平均気温 (°C)	1-2月の 平均気温 (°C)	降 水 量		そ の 他 特殊事項			
					降水の特徴	5-9月 の降水量 (mm)				
南 端 部	8~9			-2~-4	早春季少し	500-650	夏季及び初秋 豪雨あり			
日 本 海	南 部	8内外	17.5~18	21~22	-3~-5	晚春季少し	450-550			
	中 部	沿 岸			"	-4~-6	春季少し		450-550	
		平 野	7内外	-6~-8	500-550					
	北 部	6~7	15.5~16.5	20内外	-5~-8	早春季少し	450			
	後志・火山地域	5~6	16~17	21~22	-7~-9	春季少し	450		積雪多し	
太 平 洋 側	噴火湾沿岸	7~8	16~17.5	21~22	-5内外	早春季少し	550			
	胆振日高沿岸				-5~-8		550			
	十勝	沿 岸	6内外	14.5~16	18~20	-7~-10	冬季少し		550-700	初夏霧多し
		平 野		16~17.5	20~21	-10~-11			500-600	
	根釧	沿 岸	3~6	13.5~14.5	17~19	-5~-8	冬春季少し		500-650	初夏濃霧多し
		平 野		15~16	20内外	-8~-10			500-550	初夏霧多し
オク ホー ツ側	南 部	5~7	14.5~15.5	18~20	-7~-9		350-500	海水多し		
	北 部	4~5					400-450			
内 陸	盆 地 帯	5~6	16~17.5	20~22	-8~-11	早春季少し	500-600	北部積雪多し		
	山 岳 部	4~5	15~16.5	20内外	-11以下		400-600	積雪多し		

.. 地位と土壌 ..

北海道の低山地帯の森林土壌の特徴は火山灰土壌の広い分布と重粘土地の介在である。
 本道中部以南の地域は大部分火山性土に覆われている。本道には数多くの活火山群があるが、大部分は中部以南にあり、その噴出物はほぼ南東を主軸として堆積している。これら火山灰は地域的に粒の微、粗があるが、堆積年次はきわめて新しく200~500年位にすぎないものが大部分で、有機物の蓄積も不十分で、風化、土壌化が進んでいない。苫小牧、白老地方の収穫表に示しているように、新しい粗粒火山灰地の林木の成長は劣っている。

本道の北北部の各地にはいわゆる重粘強酸性土壌が広く分布している。重粘土は洪積層の埴土ないし第3紀層の頁岩地帯に多く、堅密で、粘性が大きく、排水が不良であるが、森林土壌では腐植ないし根によつて粘土に多数の亀裂が生じ、表層の理化学性は必ずしも不良でないが、下層は重粘、堅密で根が深く入ることができず、したがつて林木の成長の不良は免れず、地位下の中にはかかる重粘地が含まれる場合が多い。本道の北部、東部の河川の低地帯は気候の冷涼と過湿地のため泥炭土が生成されている。ヤチハンノキ林収穫表はかかる沼沢泥炭地周縁のものである。(松井善喜)

恵庭地方の萌芽林収穫予想表

林令	上層木					中下層木					合計			
	平均		1 ha当り			平均		1 ha当り			1 ha当り			
	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	本数	幹材積 (m³)	平均成長量 (m³)	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	本数	幹材積 (m³)	平均成長量 (m³)	本数	幹材積 (m³)	連年 (m³)	平均 (m³)
5	1.0	2.1				0.2	1.5							
10	3.3	4.4	10,236	28	2.8	1.3	3.0							
15	5.5	6.4	4,591	47	3.2	2.3	4.3	8,028	13	0.9	12,619	60	4.4	4.0
20	7.6	8.1	2,832	64	3.2	3.1	5.3	6,721	19	0.9	9,533	83	5.0	4.1
25	9.5	9.3	2,034	81	3.2	3.8	6.0	6,001	27	1.1	8,035	108	4.4	4.3
30	11.2	10.3	1,589	94	3.2	4.3	6.6	5,554	36	1.2	7,143	130	3.5	4.3
35	12.7	11.2	1,312	107	3.0	4.7	7.0	5,239	42	1.2	6,551	148		4.2

恵庭地方のなだらかな丘陵は樽前の火山灰砂の互層からなり、地味が瘠せているので、従来薪炭林として経営されている二次林が多かった。これら二次林は天然林の皆伐跡に成立したものと、この二次林の皆伐跡に萌芽したものとあるが、喬木、小喬木など、いろいろの樹種からなり、立木度が密である。施業的指針とするため林分構造と成長を解析して収穫予想表を作ったものである。この表は林床にササがなく、立木度の過密な場合の例で、ササ地の場合は1~2割収穫が少ない。

日高国門別地方の萌芽林収穫予想表

林令	上層木					中下層木					合計			
	平均		1 ha当り			平均		1 ha当り			1 ha当り			
	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	本数	幹材積 (m³)	平均成長量 (m³)	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	本数	幹材積 (m³)	平均成長量 (m³)	本数	幹材積 (m³)	連年 (m³)	平均 (m³)
5	1.0	2.4				0.6	1.5							
10	3.6	5.4	8,802	36	3.6	1.7	3.3	6,106	6	0.6	14,908	42	5.8	4.2
15	6.1	8.1	3,963	61	4.0	2.7	4.7	4,652	10	0.7	8,615	71	6.2	4.7
20	8.4	10.3	2,450	86	4.3	3.5	5.7	3,986	16	0.8	6,436	102	6.4	5.1
25	10.5	12.0	1,792	111	4.4	4.2	6.4	3,601	23	0.9	5,393	133	5.0	5.3
30	12.4	13.5	1,385	130	4.4	4.7	7.0	3,358	28	0.9	4,743	158	3.6	5.3
35	14.1	14.6	1,111	144	4.1	5.1	7.4	3,182	32	0.9	4,293	176		5.0

日高門別地方の民有林の広葉樹二次林は10数年~20年生伐期で製炭しており、皆伐をくり返し、密生した萌芽林となつているものが多い。樹種はナラ、カバが主となつているが、この取扱いの指針を得るため収穫予想表を作製したのである。この表は立木度の密な林分を対象としたもので、一般林地を広くみれば疎立部分もあるので、経営面に適用するには約2割収穫を少なくみなければならぬ。

薪炭林(萌芽)収穫表

地 位	林 令	林 木										
		平 均					1 ha 当り					
		胸高直径 (cm)	樹高 (m)	幹材積 (m³)	本数	胸高断面積 (cm²)	幹材積 (m³)	連年成長量 (m³)	平均成長量 (m³)	成長率 (%)		
上	6	3.2	4.3	0.0020	3,806	3.1	8				1.27	28.24
	7	3.4	4.5	0.0022	4,549	4.2	10				1.46	28.74
	8	3.6	4.8	0.0027	5,088	5.5	14	4.0			1.71	32.29
	9	3.8	5.1	0.0034	5,481	6.7	19				2.09	22.29
	10	4.1	5.3	0.0041	5,779	8.1	24				2.36	18.88
	11	4.3	5.6	0.0048	5,949	9.5	29	4.3			2.59	15.41
	12	4.6	5.8	0.0056	6,000	10.8	34				2.78	12.12
	13	4.8	6.0	0.0063	5,891	11.8	38				2.90	10.11
	14	5.0	6.1	0.0072	5,722	12.7	42	3.4			2.98	7.52
	15	5.2	6.4	0.0081	5,459	13.3	45				2.99	6.93
16	5.5	6.6	0.0091	5,223	13.9	49				3.01	6.94	
等	17	5.7	6.8	0.0102	5,009	14.5	52	3.2			3.02	6.42
	18	5.8	7.0	0.0113	4,821	15.1	55				3.04	5.92
	19	6.0	7.1	0.0124	4,646	15.7	59				3.06	5.72
	20	6.1	7.3	0.0136	4,486	16.2	61	3.2			3.08	5.38
	21	6.3	7.5	0.0149	4,340	16.8	65				3.09	4.99
	22	6.5	7.7	0.0162	4,204	17.3	68				3.11	4.54
	23	6.7	7.8	0.0174	4,079	17.8	71	2.9			3.11	4.11
	24	6.9	8.0	0.0186	3,962	18.1	74				3.10	3.83
	25	7.1	8.1	0.0199	3,854	18.6	77				3.10	3.77
	地	26	7.2	8.3	0.0213	3,752	19.0	80	2.6			3.09
27		7.4	8.4	0.0226	3,656	19.4	83				3.08	3.51
28		7.5	8.5	0.0240	3,566	19.7	86				3.08	3.34
29		7.7	8.7	0.0254	3,483	20.1	89	2.6			3.08	3.07
30		7.8	8.8	0.0269	3,403	20.4	92				3.07	2.90
31		8.0	8.9	0.0283	3,327	20.8	95				3.05	2.76
32		8.1	9.0	0.0297	3,257	21.1	97	2.6			3.04	2.54
33		8.3	9.1	0.0311	3,188	21.4	100				3.03	2.40
34		8.4	9.3	0.0325	3,125	21.6	102				3.01	2.22
35		8.5	9.4	0.0339	3,063	21.9	105			2.99		

地位	林令	木 1 ha 当り									
		平均			本数	胸高断面積 (cm ²)	幹材積 (m ³)	幹材積			
		胸高直徑 (cm)	樹高 (m)	幹材積 (m ³)				連年成長量 (m ³)	平均成長量 (m ³)	成長率 (%)	
	6	3.1	3.8	0.0017	852	0.6	1	3.8	0.24	112.28	
	7	3.2	4.0	0.0019	2,602	2.2	5	3.8	0.69	54.48	
	8	3.4	4.2	0.0023	3,806	3.7	9	3.8	1.11	34.78	
	9	3.6	4.5	0.0028	4,549	5.0	13	3.8	1.40	27.56	
	10	3.9	4.7	0.0033	5,088	6.2	17	3.8	1.67	22.96	
	11	4.1	4.9	0.0037	5,481	7.6	21	4.3	1.90	19.56	
	12	4.3	5.2	0.0044	5,779	9.0	26	4.3	2.12	16.31	
	13	4.5	5.4	0.0050	5,949	10.3	30	4.3	2.31	12.42	
	14	4.7	5.5	0.0057	6,000	11.5	35	4.3	2.45	9.66	
	15	4.9	5.8	0.0063	5,891	12.3	38	4.3	2.53	7.42	
	16	5.1	5.9	0.0071	5,685	12.9	41	2.7	2.55	6.25	
	17	5.2	6.0	0.0079	5,468	13.4	44	2.7	2.56	5.92	
	18	5.4	6.2	0.0087	5,271	13.9	46	2.7	2.56	5.49	
	19	5.6	6.4	0.0095	5,091	14.4	49	2.7	2.57	5.39	
	20	5.8	6.5	0.0103	4,926	14.9	52	2.7	2.57	5.13	
	21	5.9	6.7	0.0112	4,774	15.4	54	2.6	2.57	4.68	
	22	6.0	6.8	0.0117	4,634	15.8	57	2.6	2.57	4.56	
	23	6.1	7.0	0.0130	4,504	16.3	60	2.6	2.58	4.25	
	24	6.3	7.1	0.0140	4,382	16.7	61	2.6	2.58	3.94	
	25	6.4	7.3	0.0150	4,268	17.1	64	2.6	2.57	3.91	
	26	6.6	7.4	0.0160	4,162	17.5	66	2.4	2.57	3.69	
	27	6.7	7.5	0.0170	4,063	17.9	69	2.4	2.57	3.45	
	28	6.9	7.6	0.0179	3,969	18.1	71	2.4	2.57	3.05	
	29	7.0	7.7	0.0197	3,881	18.4	74	2.4	2.55	2.86	
	30	7.1	7.9	0.0199	3,797	18.7	76	2.4	2.54	2.64	
	31	7.2	8.0	0.0208	3,718	19.0	78	2.1	2.52	2.50	
	32	7.4	8.1	0.0218	3,643	19.3	80	2.1	2.51	2.62	
	33	7.5	8.2	0.0228	3,571	19.5	82	2.1	2.50	2.52	
	34	7.6	8.3	0.0239	3,504	19.8	84	2.1	2.48	2.33	
	35	7.7	8.4	0.0249	3,439	20.0	86	2.1	2.47		

地位	林令	木 1 ha 当り									
		平均			本数	胸高断面積 (cm ²)	幹材積 (m ³)	幹材積			
		胸高直徑 (cm)	樹高 (m)	幹材積 (m ³)				連年成長量 (m ³)	平均成長量 (m ³)	成長率 (%)	
	6	2.8	3.2								
	7	3.0	3.4								
	8	3.2	3.6								
	9	3.3	3.8	0.0020	852	0.8	2	4.5	0.09	112.98	
	10	3.5	4.0	0.0024	2,602	2.6	6	4.5	0.61	52.05	
	11	3.7	4.2	0.0028	3,806	4.3	11	4.2	0.94	31.85	
	12	3.9	4.4	0.0032	4,549	5.8	15	4.2	1.21	24.59	
	13	4.1	4.6	0.0036	5,088	7.0	19	4.2	1.43	25.28	
	14	4.2	4.8	0.0041	5,481	8.4	23	4.2	1.62	18.37	
	15	4.4	5.0	0.0046	5,779	9.7	27	4.2	1.79	16.89	
	16	4.6	5.2	0.0052	5,949	10.8	31	2.9	1.92	10.91	
	17	4.8	5.3	0.0057	6,000	11.8	35	2.9	2.02	6.23	
	18	4.9	5.5	0.0062	5,811	12.3	37	2.9	2.03	5.94	
	19	5.1	5.6	0.0068	5,651	12.8	39	2.9	2.04	5.56	
	20	5.2	5.8	0.0073	5,493	13.3	41	2.9	2.05	5.11	
	21	5.4	5.9	0.0080	5,337	13.7	44	2.1	2.05	4.94	
	22	5.5	6.0	0.0086	5,196	14.1	46	2.1	2.06	4.71	
	23	5.6	6.1	0.0093	5,066	14.6	48	2.1	2.07	4.36	
	24	5.8	6.2	0.0099	4,946	15.0	50	2.1	2.07	3.83	
	25	5.9	6.4	0.0106	4,821	15.3	52	2.1	2.06	3.70	
	26	6.0	6.5	0.0113	4,704	15.7	54	1.9	2.06	3.46	
	27	6.1	6.6	0.0120	4,594	16.0	56	1.9	2.05	3.29	
	28	6.2	6.7	0.0127	4,488	16.3	58	1.9	2.04	3.11	
	29	6.3	6.8	0.0134	4,391	16.6	60	1.9	2.04	3.13	
	30	6.4	6.9	0.0141	4,299	16.9	61	1.9	2.03	2.97	
	31	6.5	7.0	0.0148	4,212	17.2	62	1.8	2.02	2.79	
	32	6.6	7.1	0.0156	4,132	17.5	64	1.8	2.01	2.58	
	33	6.7	7.2	0.0163	4,049	17.7	66	1.8	2.01	2.63	
	34	6.8	7.3	0.0170	3,974	17.9	68	1.8	2.00	2.05	
	35	6.9	7.4	0.0178	3,902	18.1	69	1.8	1.99		

北海道天然生広葉樹林中主として萌芽更新により成立する林分の収穫表で、民有林林分収穫表作製方針書によつて作製している。資料は標準地 105 カ所で、渡島・胆振・石狩・十勝支庁管内に於いて選定調査した。本収穫表は、1.0寸上 (0.5括約) の林木のみを調査対象としているので本数が一般と違つている。したがつて平均胸高直徑・樹高も幼令級においては真の平均数値となつていない。なお本道における萌芽林は、北部と南部ではあるいは異つた成長経路を示すのでないかと考えられるが、本収穫表は地域差を考慮することなく作製したのでこの点使用に注意を要する。

昭和35年4月25日印刷
昭和35年5月1日発行

編集発行人
森林計画研究会北海道林務部支部
大野喜久夫
(札幌市北海道林務部森林企画課内)

[会員実費頒布]

札幌市北1條西2丁目
印刷所 札幌印刷株式会社
〒01211 0958

印刷者 安藤勇逸